

調査報告

沖縄県におけるサツマイモトビハムシの分布状況とその寄主植物

沖縄県宜野湾市 小濱 つくお雄

はじめに

サツマイモトビハムシ（別称：サツマイモヒサゴトビハムシ）*Chaetocnema confinis* Crotch, 1873（図-1）は、サツマイモ *Ipomoea batatas* (L.) Lam. の害虫で、北米原産とされている（SCHALK et al., 1991；JOLIVET, 2008；林川ら, 2013）。本種は北米および世界の熱帯地域に広く分布し（JOLIVET, 2008）、日本では小笠原諸島、九州（宮崎県・鹿児島県）および琉球列島から記録されている（TAKIZAWA, 1998；今坂・祝, 2007；小濱, 2010；今坂・石関, 2012；宮崎県病害虫防除・肥料検査センター, 2012；東京都病害虫防除所, 2012）。本種の寄主は、サツマイモのほか、ヨウサイ（エンサイ）*I. aquatica* Forsk., ノアサガオ *I. indica* (Burm.) Merr.（図-2）、マルバアサガオ *I. purpurea* Roth, セイヨウヒルガオ *Convolvulus arvensis* L. 等のヒルガオ科植物である（JOLIVET, 2008；MAJKA and LESAGE, 2010）。成虫は、体長 1.5 mm 程度の微小なハムシで葉を食する（図-3）。産卵は地中に行われ、幼虫は根を食べて育ち、地中で蛹化する（SCHALK et al., 1991；JOLIVET, 2008；林川ら, 2013）。サツマイモ畑周辺に生育する野生寄主で繁殖した成虫がサツマイモに移っていくと推定され（林川ら, 2015）、植付け後のサツマイモ畑に侵入することが多い（SCHALK et al., 1991；林川ら, 2014）。

国内において、本種によるサツマイモ塊根やヨウサイの葉の被害が明らかになったのは最近のことであり（今坂・石関, 2012；宮崎県病害虫防除・肥料検査センター, 2012；東京都病害虫防除所, 2012；林川ら, 2013）、今後、被害が拡大する懸念がある。しかし、防除対策を講ずるうえで基礎的な知見となる、本種の分布状況や寄主範囲に関する情報は極めて少なかった。例えば、沖縄県で本種の分布が記録されていたのは沖縄島、津堅島、久米島および石垣島のわずか4島であり（小濱, 2010）、また、国内で確認されている寄主植物は、サツマイモ、ヨウサイ



図-1 サツマイモトビハムシ成虫

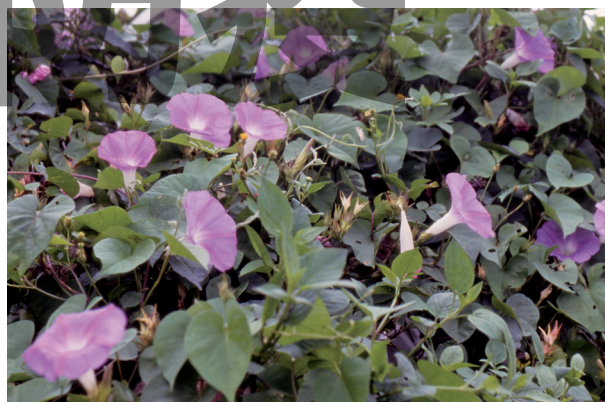


図-2 ノアサガオ

イおよびゲンバイヒルガオ *I. pes-caprae* (L.) Sweet. の3種のみであった（小濱, 2010；今坂・石関, 2012；東京都病害虫防除所, 2012）。本稿では、まず日本における本種の発生経過について述べ、そして沖縄県における本種の地理的な分布状況と寄主植物、ヒルガオ科作物の被害状況について述べる。

I 日本における発生経過

国内でサツマイモトビハムシの存在が明らかになったのは、1990年代のことである（TAKIZAWA and KUSHIGEMATI, 1996；TAKIZAWA, 1998）。というのも、南西諸島に分布す

Geographical Distribution and Host Plant of the Sweetpotato Flea Beetle, *Chaetocnema confinis* Crotch (Coleoptera: Chrysomelidae) in Okinawa, Southwestern Japan. By Tsuguo KOHAMA

（キーワード：ヒルガオ科，サツマイモ属，外来害虫，琉球列島）